

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473201224
法人名	有限会社 ミムラ
事業所名	愛の郷グループホーム
訪問調査日	平成21年3月14日
評価確定日	平成21年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1473201224
法人名	有限会社 ミムラ
事業所名	愛の郷グループホーム
所在地	241-0011 横浜市旭区川島町1599-13 (電話)045-370-3705

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年3月14日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(平成21年2月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤 9人, 非常勤 17人, 常勤換算 11.3人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨ラーメン構造造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,800 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1000 円			

(4)利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	4名	要支援2			
年齢	平均 81.8歳	最低	71歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	横浜鶴ヶ峰病院、新緑会脳神経外科、大久保クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは有限会社 ミムラの経営で、相鉄線鶴ヶ峰駅からバスで2つ目、歩いて12～3分位の比較的新しい住宅地にある。近隣には団地群、1戸建て新築住宅、農業を中心とした古くからの地元の方が混在する地域で郊外型住宅地である。オーナーは地元の人であり、地元団体等と古くからお付き合いがあり、開設時からスムーズに地域に溶け込んでいる。自治会にも参加し非常に良好な関係が維持されている。近隣の人達と関連も非常に良い。このホームでは色々なイベントを行い、ご家族や近所の方々と一緒に行事を楽しんでいる。芋煮会ではホームの畑で出来た野菜類を中心にご家族、近所の方々、利用者さんが一緒に食べて楽しんでいる。ゴミの集積場所を提供し近所の方に利用してもらっている。こういった地道な活動は地元出身のオーナーの地の利と相俟って強い連携につながっている。運営推進会議により自治会、民生委員等の協力が得られ、地域包括支援センターも近くにあり地域との密着も広がった。介護計画等にはセンター方式を活用し、利用者個人別に生活歴、嗜好や好みなどを把握することによるケアの向上と、居室担当制によって日常のアセスメントを職員が意識することで職員のレベルアップを図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) この1年間は職員のレベルアップに取り組んだ。前述のようにセンター方式の採用により、特に新入居者についてのアセスメントは充分に行い、また居室担当制によって日常のアセスメントを職員が意識し、日常、利用者を見ている職員の観察力の活用と夜勤明け時の引継ぎの内容の充実をカンファレンスで共有化しレベルアップを図った。また職員の提案によりハードの面でもトイレや外の遊歩道への手すりの増設、2階専用のインターフォンの設置など具体的な提案が為されるなどレベルアップが見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前は外部評価結果を配布し、日頃の活動を見直し、改善事項の改善を促した。今回の自己評価作成に当っては、管理者だけの評価とせず、職員には自己評価票を配布し記入、提出してもらった。これにより、その目的や狙いの周知徹底を図った。プロセスでの気付きや指摘事項は改善に取り組む予定である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は平成19年7月に第1回目を開催して以来、既に10回実施し、今月末に第11回を開催する予定にしている。メンバーは自治会から会計の方、民生委員、家族代表、利用者代表、ホーム関係者でありオブザーバーとして地域包括支援センターの所長を参加している。この運営推進会議を通じて、自治会行事等への参加、民生委員経由でボランティアの紹介があるなどの効果が出ている。基本的にホームの活動報告を行いご意見を頂く形で進めているが、今後の活動方法についてメンバーの方にも投げかけをしている。勉強会の併設等も考えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族は良く訪問してくれており、関係は良く、連携も充分取れている。利用者さんの生活状況や健康状況については来訪時に出来るだけ詳しくお伝えするとともに、「ホームの便り」を毎月トピックスに写真を添えてお送りし状況をお知らせするようにしている。特に健康上の問題点が発生した場合には電話でお知らせするようにしている。年間には沢山の行事が予定されており、行事にはご家族も参加しているので、家族会は形にとらわれず、行事併設のゆるやかな開催をしていく予定にしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携では①保育園の子どもの2ヶ月に1回の交流がある。②ミコミ喫茶の障害者の方との交流がある。③芋煮会などのホームの行事に地域の方もお招き一緒に楽しんでいる。④ボランティアの関係ではリハビリ盆おどり、日舞、ハーモニカ、マンドリン、紙芝居等の方が来てくれている。⑤町内会の関係では町内会に加入し、盆おどり、防災訓練、ドンド焼きなどの行事に積極的に参加し交流を深めている。
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛のあるやさしい心」「一人ひとりを大切に」「穏かな生活」の三つの理念は、経営者と職員が策定したものでお年寄りの尊厳を保ち、地域でその人らしい暮らしをできる様支援の基本を表した理念である。		今後も継続して取り組んで行く
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営者は常に理念を意識して業務を遂行するように指導しており、職場の目の付く場所に理念を掲示したり、研修会や勉強会、ケースカンファレンスや会議等で確認したりしてこれを意識付けしている。		今後も継続して取り組んで行く
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として各種行事等に積極的に参加している。盆踊りには浴衣を着て参加したり、ドンド焼きでは皆さんと一緒にお団子を焼いて無病息災をお願いしたりして地域との交流を深めている。本年は盆踊りの櫓に飾る花を入居者が折って協力するなど地域の一員としての活動をした。	○	老人会から紅白のお饅頭やお菓子を頂戴してきたが、今後はご利用者の方に参加もして頂き、更に地域との一体感を出して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を配布し日頃の活動を見直し、改善すべき事項が有れば日々の業務に生かす様に促している。また、事前の自己評価作成に当っては管理者だけの評価にせず、その評価の趣旨や狙いを運営者・ホーム長やユニット長・職員にも配布し、項目の評価をする事によりこれまでの活動の反省と評価、制度の意識付けを図っている。	○	職員は自己評価項目や外部評価について再確認し、事業所全体でサービス向上に向けて取組んでいく。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年7月に第1回目を開催し、これまで10回の会議を開催してきた。以降、3ヶ月に1回の頻度で定期的開催してきており、日々の活動の伝達だけでなく、頂いたアドバイスや意見は真摯に受けとめ、日頃のサービス向上に生かしている。		今後も継続して取り組んで行く

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の主催する連絡会や研修会に参加し、情報の収集に役立ててたり連携を取っている。行政のサービス内容も直接問い合わせ確認し、必要な提供をご家族にも知らせ取り入れている。また、介護保険の更新の代理申請など実施している。		今後も継続して取り組んで行く
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の事故や大きな体調不良時は職員から直接電話にて家族に報告している。日々の利用者の様子や行事等の内容はお便りとして写真に表し、毎月の請求書と一緒に郵送し報告している。職員の異動等については面会時やお便りで報告し、お預かりしているお小遣いについては、金銭帳簿への記録をご家族に毎月報告している。		今後も継続して取り組んで行く
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には管理者及び外部機関の苦情受付窓口の連絡先を明記し、また玄関先にご意見箱を設置している。これまで苦情や意見等は無かった為、具体的な対応は実績としてない。		苦情処理組織や対応マニュアルを作成し、運営に反映させて行きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員とは常に意思疎通を図り、離職に繋がるような事態を最小限となるよう配慮している。チームケアに徹し、止む無く異動等発生時は引継ぎや教育を実施し影響が少なく留まるように対応している。		今後も継続して取り組んで行く
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の教育研修計画を作成し、計画的に研修の機会を受けられるようにしている。また、横浜市のグループホーム連絡会主催の交換研修会にも参加しレベルアップを図っている。		今後も継続して取り組んで行く
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県や横浜市グループホーム連絡会、地域グループホームのブロック連絡等に参加し、相互交流や勉強会、情報の収集により得た結果を事業活動に反映している。		今後も継続して取り組んで行く

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際して事前に見学は勿論、体験入居なども勧め無理なく利用できるような配慮をしている。また、ご家族とも相談しこれまでの馴染みの家具や衣類などの持参を勧め、新しい環境にスムーズに慣れて頂ける雰囲気作りをしている。		今後も継続して取り組んで行く
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員がホームは生活の場としての認識を持ち、介護をする立場だけではなく、一緒に生活をするパートナーとしての意識を持ち、一日の暮らしを作るようにしている。調理も掃除もレクリエーションも職員と一緒にその場を楽しむ雰囲気づくりに努力している。		今後も継続して取り組んで行く
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画等にはセンター方式を活用し、利用者個人別に生活歴、嗜好や好みなどを把握することによるケアの向上を図っている。居室担当を決め、一人ひとりの思いを把握して対応するようにしている。日常のアセスメントを職員が意識することで職員のレベルアップを図っている。また、ケースカンファレンスを実施して適切な介護支援方法を検討している。		今後も継続して取り組んで行く
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスでケアマネジャー・ホーム長・ユニット長・担当職員が課題を検討し、状況によりご家族やご本人の意向も確認してケアプランを作成している。また、朝の引継ぎミーティングに出来るだけケアマネジャーも参加し日々の変化に対し、タイムリーに支援する内容を検討し対応するように努力している。		家族の意向をもっと反映したケアプラン作りを進めて行きたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者のそれぞれに対して定期的見直しが不十分であり、要介護度の変更、入退院後のADL変化等現状に即したプランづくりや、定期的な見直しを進めていく必要がある。	○	現状に即したプランづくりや、定期的な見直しを進めて行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の都合により、通院介助や買い物等の支援を可能な限りタイムリーに進めている。		今後も継続して取り組んで行く
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員は訪問診療のクリニックと契約を結び、定期的診療を受け医療的に適切な診察治療を受けている。また突発的体調不良時もドクターに緊急電話連絡をし、必要な対応の指示を受けている。		今後も継続して取り組んで行く
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴ない共同生活が困難が予想された場合は、将来的な生活の有り方をご家族に相談し、場合によっては施設介護への申込みも依頼している。現状では設備及び医療との連携、職員の技術レベル等を考え、ターミナルケアは導入できる状況にないが、将来的には導入を検討して行く。	○	ターミナルケアの導入に向け準備検討を進めていく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の自尊心やプライバシーを傷つけないような対応を心がけ、職員間でも常に話し合い細心の注意をして支援している。記録類についても保管場所は職員しか目の届かない場所に保管管理している。更に個人情報については守秘義務の徹底を指導している。		今後も継続して取り組んで行く
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場として生活のリズムとご利用者のペースに配慮しながら、出来るだけ起床・食事・入浴・日中の過ごし方・就寝時間は柔軟に対応するように心がけている。		今後も継続して取り組んで行く

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には出前の昼食を注文したり、買出しに行き外の牛丼を買って食べて貰ったりしている。調理は一緒に出来る方にはじゃが芋やにんじんの皮むき、モヤシのヒゲ取り、大根のおろしなど準備作業、また配膳や食後の片付けなどにも参加してもらい自立支援と役割を実行している。		今後も継続して取り組んで行く
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	まずは出来るだけ公平に入浴を楽しめるように配慮しつつ、状況や希望に合わせて入浴できるような対応に心がけている。		今後も継続して取り組んで行く
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割、出番を見出し、日々の生活で関わりを持って生活して貰っている。買い物・料理・掃除・洗濯物の取り入れや整理・庭の草取り・園芸・音楽鑑賞・編み物やお絵かきなど役割・楽しみ事など職員が一緒になって支援している。		今後も継続して取り組んで行く
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日はできるだけ近くの公園に散歩に、障害者が営業している近くの喫茶店でコーヒーを飲んだりパサーに出かけている。喫煙する入居者とは散歩をかねて歩いて煙草を買いに出かけたりもしている。時には芝生の庭に出て1階と2階の全員でコーヒーのお茶会を楽しむ等の気分転換を図っている。		今後も継続して取り組んで行く
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、利用者がいつでも自由に入出りできるようにフリーにしている。しかし安全管理上、二階の玄関にはドア一開閉時のセンサーを取り付け、出入りする際の確認をしている。		今後も継続して取り組んで行く
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を頂き、消火訓練や避難訓練等の指導をして貰っている。また自治会の避難防災練にも参加している。	○	有事の際は地域の消防班にも協力をお願いしていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは食材配送会社で管理依頼しており、水分摂取量については飲水記録をつけ管理している。嚥下状況によりトロミアップや刻み食などの対応をしている。		今後も継続して取り組んで行く
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には、家庭的で暖かい雰囲気作りをしている。壁にはリースや行事の際の写真を掲示したり、テーブルには季節の切花を飾ったりしている。雰囲気によりBGMを流したり落語を流したり工夫し、入居者が落ち着いて寛げるような配慮をしている。		今後も継続して取り組んで行く
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら、慣れ親しんだ家具やお気に入りの物を継続して利用して頂けるよう勧め、安心して過ごせるような居室作りを心掛けています。ご希望によりテレビや仏具などの持ち込みもして頂いている。		今後も継続して取り組んで行く

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛の郷グループホーム
(ユニット名)	なの花家
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市旭区川島町1599-13
記入者名 (管理者)	桑嶋 章
記入日	平成 21年 3 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛のあるやさしい心」「一人ひとりを大切に」「穏かな生活」の三つの理念は、経営者と職員が策定したものでお年寄りの尊厳を保ち、地域でその人らしい暮らしをできる様支援の基本を表した理念である。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営者は常に理念を意識して業務を遂行するように指導しており、職場の目の付く場所に理念を掲示したり、研修会や勉強会、ケースカンファレンスや会議等で確認したりしてこれを意識付けしている。		今後も継続して取り組んで行く
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の自治会に加入することにより、自治会主催の行事(盆踊り、運動会等)や地域の清掃活動参加し、入居者が地域の一人として感じて頂ける様に取組んでいる。また、施設の行事に地域の方やご近所に案内状を配布し当日は入居者のご家族も一緒に楽しんで頂いている。	○	今後も継続して取り組んで行く
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員が通勤や買い物等で顔を合わせた時の挨拶や、入居者との日々の散歩でご近所の方に気軽に声掛け合う等お互いに良い関係作りをしている。		今後も継続して取り組んで行く
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一人として各種行事等に積極的に参加している。盆踊りには浴衣を着て参加したり、ドンド焼きでは皆さんと一緒にお団子を焼いて無病息災をお願いしたりして地域との交流を深めている。本年は盆踊りの櫓に飾る花を入居者が折って協力するなどで地域の一人としての活動をした。	○	老人会から紅白のお饅頭屋お菓子を頂戴してきたが、今後はご利用者の方に参加もして頂き、更に地域との一体感を出して行きたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入居相談時にケアマネジャーが直接ご家族やご本人からお話を聞き、状況に応じ説明や助言をしている。また、空き室が無く入居できない場合は、他の方法や施設の利用など説明をし、相談にのっている。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価結果を配布し日頃の活動を見直し、改善すべき事項があれば日々の業務に生かす様に促している。また、事前の自己評価作成に当っては管理者だけの評価にせず、その評価の趣旨や狙いを運営者・ホーム長やユニット長・職員にも配布し、項目の評価をする事によりこれまでの活動の反省と評価、制度の意識付けを図っている。</p>	○	<p>職員は自己評価項目や外部評価について再確認し、事業所全体でサービス向上に向けて取り組んでいく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成19年7月に第1回目を開催し、これまで10回の会議を開催してきた。以降、3ヶ月に1回の頻度で定期的開催してきており、日々の活動の伝達だけでなく、頂いたアドバイスや意見は真摯に受けとめ、日頃のサービス向上に活かしている。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市や区の主催する連絡会や研修会に参加し、情報の収集に役立ててたり連携を取っている。行政のサービス内容も直接問い合わせ確認し、必要な提供をご家族にも知らせ取り入れている。また、介護保険の更新の代理申請など実施している。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度の資料など取り寄せ学ぶ機会を取り入れるように努力している。また、入居者の状況と将来を考え成年後見制度の申請などの助言を直接家族に話している。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について全職員が認識し、絶対にやらない事を相互確認している。また、入浴時や更衣時など注意観察し、異常な外傷等を見過ごす事のないように心がけ、発見時は管理者に報告するよう指導している。</p>	○	<p>虐待防止について定期的に理解を深める機会を作って行きたい。</p>
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に入居時は契約書と重要事項を読み上げながら十分説明し、利用時の注意事項や入居に関わる取り決め等について理解、納得して入居して頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者毎に居室担当を決め、常に入居者の意見やお思いを把握し対応するようにしている。		今後も継続して取り組んで行く
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の事故や大きな体調不良時は職員から直接電話にて家族に報告している。日々の利用者の様子や行事等の内容はお便りとして写真に表し、毎月の請求書と一緒に郵送し報告している。職員の異動等については面会時やお便りで報告し、お預かりしているお小遣いについては、金銭帳簿への記録をご家族に毎月報告している。		今後も継続して取り組んで行く
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には管理者及び外部機関の苦情受付窓口の連絡先を明記し、また玄関先にご意見箱を設置している。これまで苦情や意見等は無かった為、具体的な対応は実績としてない。		苦情処理組織や対応マニュアルを作成し、運営に反映させていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット会議や正職員会議を開催し、職員の意見や要望など聞く機会を設け、適宜設備改善や業務改善の対応を進めている。		今後も継続して取り組んで行く
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて柔軟に勤務や業務調整するように努力している。		今後も継続して取り組んで行く
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員とは常に意思疎通を図り、離職に繋がるような事態を最小限となるよう配慮している。止む無く異動等発生時は引継ぎや教育を実施し影響が少なく留まるように対応している。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の教育研修計画を作成し、計画的に研修の機会を受けられるようにしている。また、横浜市のグループホーム連絡会主催の交換研修会にも参加しレベルアップを図っている。		今後も継続して取り組んで行く
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県や横浜市グループホーム連絡会、地域グループホームのブロック連絡等に参加し、相互交流や勉強会、情報の収集により得た結果を事業活動に反映している。		今後も継続して取り組んで行く
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的開催する会議の場で問題点や改善点などを議論し合い、業務上のストレスを溜め込まないように対応している。また、普段から同僚や上司との意思疎通を図れるように環境整備を進めている。肉体的疲労は休憩室にマッサージ機を備え疲労回復の機会を設けている。		今後も継続して取り組んで行く
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	給与や賞与に普段の勤務評価や積極性、努力度合いを反映し、業務の意欲や向上心に繋げるようにしている。	○	人事考課制度を確立し、公正に評価し働く意欲や能力向上への取り組みを進めていきたい。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	基本的に入居前にご本人の施設見学を勧め、不安を出来るだけ解消して入居して頂くともに、日常生活における要望や不安などをご家族からもお聞きして入居者が落ち着く環境作りするように情報を得ている。		今後も継続して取り組んで行く
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時にご家族に施設見学をして頂き、生活環境をよく理解して入居して貰っている。また、生活上の要望や情報、ご家族の意向なども聞き安心して生活できる環境作りをしている。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活状況やADL、健康状況等を確りヒアリングして、グループホームの生活に適しているか入居基準に適合しているかなど判断している。状況により他の介護保険施設や在宅介護、又は老人保健施設などのサービス利用を勧めている。		今後も継続して取り組んで行く

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際して事前に見学は勿論、体験入居なども勧め無理なく利用できるような配慮をしている。また、ご家族とも相談しこれまでの馴染みの家具や衣類などの持参を勧め、新しい環境にスムーズに慣れて頂ける雰囲気作りをしている。		今後も継続して取り組んで行く
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員がホームは生活の場としての認識を持ち、介護をする立場だけではなく、一緒に生活をするパートナーとしての意識を持ち、一日の暮らしを作るようにしている。調理も掃除もレクリエーションも職員と一緒にその場を楽しむ雰囲気づくりに努力している。		今後も継続して取り組んで行く
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ施設の行事に参加して貰ったり、面会訪問時は時間が合えばご家族にも散歩等にご一緒して頂くなどの機会を作る努力をしている。		今後も継続して取り組んで行く
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には制限を設けず、良い関係を維持して頂ける様にいつでも面会を歓迎している。また面会時は出来るだけ、最近の様子など状況変化の有無をご家族に伝え、相互不信感に繋がらないように努力している。外泊や外出も制限せず家族との時間を過ごして頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人、知人などの訪問を歓迎し、以前の関係を損なわれる事のないようにしている。また、趣味の外出先(神社仏閣)や美容院などへの外出にも配慮し支援している。	○	もっと外出の機会を増やし、一人ひとりの暮らしが豊に感じてもらえるような支援をして行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の場として気の合う入居者同士の関係を尊重し、食事や娯楽時の席決め、外出時の同伴など良い関係の環境作りをしている。		今後も継続して取り組んで行く
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の一次先までは把握し、時には面会もしている。しかしその後の状況は把握していない。中には退居者のご家族からの年賀状などを頂戴している。		何時までも大切にしたい関係づくりを進めていきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を決め、一人ひとりの思いを把握して対応するようにしている。また、ケースカンファレンスを実施して適切な介護支援方法を検討している。		今後も継続して取り組んで行く
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族からの情報を聞くとともに、面会時などでもご家族等からヒアリングして入居者の支援内容に反映する努力をしている。		今後も継続して取り組んで行く
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	夜勤明けの引継ぎミーティングや定期的カンファレンスで、一人ひとりの過ごし方や言動を共有し、ケアマネジャーが総合的判断できる体制にしている。		今後も継続して取り組んで行く

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスでケアマネジャー・ホーム長・ユニット長・担当職員が課題を検討し、状況によりご家族やご本人の意向も確認してケアプランを作成している。また、朝の引継ぎミーティングに出来るだけケアマネジャーも参加し日々の変化に対し、タイムリーに支援する内容を検討し対応するように努力している。		家族の意向をもっと反映したケアプラン作りを進めて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者のそれぞれに対して定期的見直しが不十分であり、現状に即したケアプランになっていない。今後更なる努力をする必要がある。	○	要介護度の変更、入退院後のADL変化等現状に即したプランづくりや、定期的な見直しを進めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎の活動日誌・業務日誌・往診ノート・連絡ノート・排泄記録等々に記録を残し、その内容を全員で共有化して日常の支援に反映している。		今後も継続して取り組んで行く

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の都合により、通院介助や買い物等の支援を可能な限りタイムリーに進めている。	今後も継続して取り組んで行く
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力を得て消火訓練や避難訓練の実施、民生委員や地域のボランティア団体の協力によるアクティビティーや行事の企画をし、入居者に楽しんで貰っている。	今後も継続して取り組んで行く
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近くの地域ケアプラザの行事や集いに参加し、楽しんだ。	今後も継続して取り組んで行く
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議のメンバーとして参加して頂いており、時宜の情報を得ている。	もっと地域包括との連携を進めて行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員は訪問診療のクリニックと契約を結び、定期的診療を受け医療的に適切な診察治療を受けている。また突発的体調不良時もドクターに緊急電話連絡をし、必要な対応の指示を受けている。	今後も継続して取り組んで行く
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳神経外科医との医療提携をしているが、日常的には交流はしていない。しかし入居者の診断や相談は可能な状況である。	今後も継続して取り組んで行く
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療提携しているクリニックから二週間に1回の訪問看護が来ている。ドクター以外に相談や医療的アドバイス等の支援を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は出来るだけ面会訪問して様子を伺い、病院関係者からも情報を得て退院の見込みや入院状況を把握して支援に繋げている。		今後も継続して取り組んで行く
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴ない共同生活が困難が予想された場合は、将来的な生活の有り方をご家族に相談し、場合によっては施設介護への申込みも依頼している。現状では設備及び医療との連携、職員の技術レベル等を考え、ターミナルケアは導入できる状況にないが、将来的には導入を検討して行く。	○	ターミナルケアの導入に向け準備検討を進めていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化による設備改善は現在も進めている。グループホームでの生活が可能かどうか、将来的にどう有るべきかを訪問診療のドクターともよく相談しながら適切に支援している。		今後も継続して取り組んで行く
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所に移り住む不安を出来るだけ解消して頂く為、ご家族からの情報を入手して対応方針を共有し、ご本人にも説明をして納得して頂ける形で入居して貰っている。生活に慣れるまでは個人的対応にも努力している。		今後も継続して取り組んで行く
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	本人の自尊心やプライバシーを傷つけないような対応を心		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	がけ、職員間でも常に話し合い細心の注意をして支援している。記録類についても保管場所は職員しか目の届かない場所に保管管理している。更に個人情報については守秘義務の徹底を指導している。		今後も継続して取り組んで行く
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々関わりの中で入居者の希望や関心事・好み等を見極め、ご本人が選択する場面作りに努力している。		今後も継続して取り組んで行く
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場として生活のリズムとご利用者のペースに配慮しながら、出来るだけ起床・食事・入浴・日中の過ごし方・就寝時間は柔軟に対応するように心がけている。		今後も継続して取り組んで行く
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の洋服には本人の選択を基本としつつ、おしゃれや季節感に職員が心配りと見守りの支援をしている。不足や破損があればご家族に補充依頼したり、ご本人と一緒に好みの洋服や化粧品等の購入をするなどの支援に努めている。訪問美容に定期的来てもらって、好みの髪に整えて貰い、行き付けの美容院を希望の方は連絡して送迎付きでセットしても		今後も継続して取り組んで行く
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には出前の昼食を注文したり、買出しに行き外の牛丼を買って食べて貰ったりしている。調理は一緒に出来る方にはじゃが芋やにんじんの皮むき、モヤシのヒゲ取り、大根のおろしなど準備作業、また配膳や食後の片付けなどにも参加してもらい自立支援と役割を実行している。		今後も継続して取り組んで行く
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーや牛乳など好みの飲物を個別に購入、喫煙者には一緒に買い物にも出かけ好みの煙草を購入し、それぞれの嗜好を楽しんで貰っている。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しトイレの声掛けやトイレ誘導を実践している。		今後も継続して取り組んで行く
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	まずは出来るだけ公平に入浴を楽しめるように配慮しつつ、状況や希望に合わせて入浴できるような対応に心がけている。		今後も継続して取り組んで行く
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お天気の良い日は散歩や買い物に出かけたり、レクリエーション・家事など日中の活動を通して出来るだけ入居者個人に合わせた生活のリズム作りを行っている。また日中ソファで心地良くくとうとできるようにリビングにソファを置いている。		今後も継続して取り組んで行く
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割、出番を見出し、日々の生活に関わりを持って生活して貰っている。買い物・料理・掃除・洗濯物の取り入れや整理・庭の草取り・園芸・音楽鑑賞・編み物やお絵かきなど役割・楽しみ事など職員と一緒に支援している。		今後も継続して取り組んで行く
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお小遣いは貴重品として事務所で一括して預かっているが、買い物などの外出時は職員が付き添い一緒に支払いしたり、施設にある自動販売機ではお金を渡して自分で購入し、その方のレベルに合わせた支援の工夫をしている。		今後も継続して取り組んで行く
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日はできるだけ近くの公園に散歩に、障害者が営業している近くの喫茶店でコーヒーを飲んだりハザーに出かけている。喫煙する入居者とは散歩をかねて歩いて煙草を買いに出かけたりもしている。時には芝生の庭に出て1階と2階の全員でコーヒーのお茶会を楽しむ等の気分転換を図っている。		今後も継続して取り組んで行く
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の散歩の他、地域や施設の行事等で外出し楽しんだり、お花見や寺院にお連れしたりしている。	○	外出の機会を多くし、買い物や外食、施設見学などの機会を作って行きたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話には出来るだけ取次ぎ会話を楽しんで頂いたり、知人や家族の手紙やはがきのやりとりでポストに投函したり積極的に支援している。入居者からの電話は時間帯や内容により調整させて頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
	○家族や馴染みの人の訪問支援	施設への訪問客は特に制限してなく、いつでも歓迎している。		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設への訪問者は特に制限しなく、いつでも歓迎している。面会に来られたら、居室で自由に会話や飲食を楽しんで頂くようお茶などを出している。但し、喫煙は安全上居室外の所定の場所をお願いしている。		今後も継続して取り組んで行く
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止行為」については個々に説明はしていないが、身体拘束の問題点や禁止を理解している。現に身体拘束の実態には無い。		基準における身体拘束禁止について正しく教育指導して行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、利用者がいつでも自由に出入りできるようにフリーにしている。しかし安全管理上、二階の玄関にはドア開閉時のセンサーを取り付け、出入りする際の確認をしている。		今後も継続して取り組んで行く
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が多くいるホールに職員がいなくなることを避けるよう相互に声をかけあい、利用者の所在や様子を把握できるように努めている。行動障害がある方も居り、二階玄関にはドア開閉時のセンサーを付け安全管理の一つにしている。		今後も継続して取り組んで行く
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の状況に合わせて注意が必要な物品は何かを職員が把握し、刃物などの使用時は職員の目の届く範囲で使用してもらっている。また、共同の生活の場所には刃物や洗剤、薬等は置かないように別の場所で保管管理している。		今後も継続して取り組んで行く
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態を把握理解し、予想される事故の防止や対応方法について職員間で話し合っている。服薬は飲込みまで確認し、喫煙者には煙草とライターは職員管理を理解して貰っている。また、事故やヒヤリハットの報告記録を作成し、具体的な対策をとり全員に回覧周知して類似の事故防止を図っている。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応についてマニュアルを作成し、会議や勉強会などで対応を確認している。また緊急時に備え、救急携行袋を用意している。	○	定期的に訓練や勉強会を実施して行きたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を頂き、消火訓練や避難訓練等の指導をして貰っている。また自治会の避難防災練にも参加している。	○	有事の際は地域の消防班にも協力をお願いしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状況を把握理解し、起こり得るリスクについて職員全員で共有し、必要により見直しも行っている。家族には面会時にその都度状況を説明している。		今後も継続して取り組んで行く
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックの結果だけに頼らず、利用者本人の顔色や様子を観察し、体調変化やサインを報告するとともに状況により訪問診療のドクターに相談し、対応の助言指示を頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在使用している全ての薬(飲み薬や目薬、塗り薬や貼り薬)について、薬の写真や薬の働き、注意事項、相互作用、副作用を記載した一覧表をファイルとして常備し、処方されている薬について理解をしている。	○	誤薬等の事故が発生しないように、薬の認識を深めて行く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄のチェックシートで便秘症状の有無を把握し、水分や運動等に注意している。水分摂取量の管理や運動・腹部マッサージなどの支援に心がけている。		今後も継続して取り組んで行く
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援の必要な方には口腔ケアを実施しているが、自立されている方は声かけが主で確認できていないことがある。状況により訪問歯科医への相談もして対応している。		今後も継続して取り組んで行く
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)
取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)				
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは食材配送会社で管理依頼しており、水分摂取量については飲水記録をつけ管理している。嚥下状況によりトロミアップや刻み食などの対応をしている。		今後も継続して取り組んで行く
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	先ず職員が感染源とならないように指導し、うがい、手洗いなどを励行している。また外部研修にも参加し、新しい知識や技術を学び会議等で知識を共有している。消毒用液も常備し入居者の手洗いも促している。	○	きっちりした感染症対策マニュアルを作成して行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の食材は衛生管理を徹底した給食会社に安全な食品納品を求め問題は無い。調理については担当者は調理用のエプロンやマスク・頭巾を着用し、食器は食器乾燥機にかけるなど衛生管理に努めている。		今後も継続して取り組んで行く
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は明るい黄色の壁に赤い縁取りの屋根で、とても親しみやすい概観になっている。また、フェンス越したが庭の状況が見られ、季節毎の花や野菜があり、ご家族が訪問時に緑の芝生の状況や美しく咲いた花々、野菜の成長具合を感想で述べてくれる雰囲気になっている。		今後も継続して取り組んで行く
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には、家庭的で暖かい雰囲気作りをしている。壁にはリースや行事の際の写真を掲示したり、テーブルには季節の切花を飾ったりしている。雰囲気によりBGMを流したり落語を流したり工夫し、入居者が落ち着いて寛げるような配慮をしている。		今後も継続して取り組んで行く
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファや椅子・テーブルの配置等を工夫し、ご利用者が一人になったり、気の合った同士で自由に過ごせるような居場所を作っている。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら、慣れ親しんだ家具やお気に入りの物を継続して利用して頂けるよう勧め、安心して過ごせるような居室作りを心掛けています。ご希望によりテレビや仏具などの持ち込みもして頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
	○換気・空調の配慮	掃除時や必要時に空気の換気に努め、ご利用者の状況や		

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>状態を観ながらリビングの温度管理を適時行っている。また、常時空気清浄機も作動させ心地良い環境作りに努めている。冬季の乾燥時期は加湿器を設置し湿度の管理もしている。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用者のADLにあわせ、自立した生活が出来るだけ可能なように廊下やトイレ、浴室に手摺を設置している。最近、ご利用者の動作により必要と思われる箇所に手摺設置の提言もあり、安全と自立を考え設置を進めている。</p>	○	<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの判る力や能力を把握し、家庭的な雰囲気壊さないよう工夫しながら名札を設置したり自立支援に努めている。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外周りには、季節によりご利用者・職員が植えた草花や野菜があり、庭には芝生を張り居室やベランダから眺めることができる。1階の玄関先にはジュースやコーヒーの自動販売機を設置し、歩行訓練を兼ねて好みの飲物を購入可能にしたり工夫している。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 理念を基本とした支援体制。
- ・ ご利用者一人ひとりのその方らしい生活環境作り。
- ・ ご利用者、職員、ご家族、ドクターとのチーム連携。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛の郷グループホーム
(ユニット名)	つくし家
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市旭区川島町1599-13
記入者名 (管理者)	桑嶋 章
記入日	平成 21年 3 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

↓

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		今後も継続して取り組んで行く
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	今後も継続して取り組んで行く
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		今後も継続して取り組んで行く
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	老人会から紅白のお饅頭屋お菓子を頂戴してきたが、今後はご利用者の方に参加もして頂き、更に地域との一体感を出して行きたい。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入居相談時にケアマネジャーが直接ご家族やご本人からお話を聞き、状況に応じ説明や助言をしている。また、空き室が無く入居できない場合は、他の方法や施設の利用など説明をし、相談にのっている。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価結果を配布し日頃の活動を見直し、改善すべき事項があれば日々の業務に生かす様に促している。また、事前の自己評価作成に当っては管理者だけの評価にせず、その評価の趣旨や狙いを運営者・ホーム長やユニット長・職員にも配布し、項目の評価をする事によりこれまでの活動の反省と評価、制度の意識付けを図っている。</p>	○	<p>職員は自己評価項目や外部評価について再確認し、事業所全体でサービス向上に向けて取り組んでいく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成19年7月に第1回目を開催し、これまで10回の会議を開催してきた。以降、3ヶ月に1回の頻度で定期的開催してきており、日々の活動の伝達だけでなく、頂いたアドバイスや意見は真摯に受けとめ、日頃のサービス向上に生かしている。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市や区の主催する連絡会や研修会に参加し、情報の収集に役立ててたり連携を取っている。行政のサービス内容も直接問い合わせ確認し、必要な提供をご家族にも知らせ取り入れている。また、介護保険の更新の代理申請など実施している。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度の資料など取り寄せ学ぶ機会を取り入れるように努力している。また、入居者の状況と将来を考え成年後見制度の申請などの助言を直接家族に話している。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について全職員が認識し、絶対にやらない事を相互確認している。また、入浴時や更衣時など注意観察し、異常な外傷等を見過ごす事のないように心がけ、発見時は管理者に報告するよう指導している。</p>	○	<p>虐待防止について定期的に理解を深める機会を作って行きたい。</p>
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に入居時は契約書と重要事項を読み上げながら十分説明し、利用時の注意事項や入居に関わる取り決め等について理解、納得して入居して頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者毎に居室担当を決め、常に入居者の意見やお思いを把握し対応するようにしている。		今後も継続して取り組んで行く
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の事故や大きな体調不良時は職員から直接電話にて家族に報告している。日々の利用者の様子や行事等の内容はお便りとして写真に表し、毎月の請求書と一緒に郵送し報告している。職員の異動等については面会時やお便りで報告し、お預かりしているお小遣いについては、金銭帳簿への記録をご家族に毎月報告している。		今後も継続して取り組んで行く
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には管理者及び外部機関の苦情受付窓口の連絡先を明記し、また玄関先にご意見箱を設置している。これまで苦情や意見等は無かった為、具体的な対応は実績としてない。		苦情処理組織や対応マニュアルを作成し、運営に反映させていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット会議や正職員会議を開催し、職員の意見や要望など聞く機会を設け、適宜設備改善や業務改善の対応を進めている。		今後も継続して取り組んで行く
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて柔軟に勤務や業務調整するように努力している。		今後も継続して取り組んで行く
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員とは常に意思疎通を図り、離職に繋がるような事態を最小限となるよう配慮している。止む無く異動等発生時は引継ぎや教育を実施し影響が少なく留まるように対応している。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の教育研修計画を作成し、計画的に研修の機会を受けられるようにしている。また、横浜市のグループホーム連絡会主催の交換研修会にも参加しレベルアップを図っている。		今後も継続して取り組んで行く
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県や横浜市グループホーム連絡会、地域グループホームのブロック連絡等に参加し、相互交流や勉強会、情報の収集により得た結果を事業活動に反映している。		今後も継続して取り組んで行く
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的開催する会議の場で問題点や改善点などを議論し合い、業務上のストレスを溜め込まないように対応している。また、普段から同僚や上司との意思疎通を図れるように環境整備を進めている。肉体的疲労は休憩室にマッサージ機を備え疲労回復の機会を設けている。		今後も継続して取り組んで行く
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	給与や賞与に普段の勤務評価や積極性、努力度合いを反映し、業務の意欲や向上心に繋げるようにしている。	○	人事考課制度を確立し、公正に評価し働く意欲や能力向上への取り組みを進めていきたい。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	基本的に入居前にご本人の施設見学を勧め、不安を出来るだけ解消して入居して頂くともに、日常生活における要望や不安などをご家族からもお聞きして入居者が落ち着く環境作りするように情報を得ている。		今後も継続して取り組んで行く
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時にご家族に施設見学をして頂き、生活環境をよく理解して入居して貰っている。また、生活上の要望や情報、ご家族の意向なども聞き安心して生活できる環境作りをしている。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活状況やADL、健康状況等を確りヒアリングして、グループホームの生活に適しているか入居基準に適合しているかなど判断している。状況により他の介護保険施設や在宅介護、又は老人保健施設などのサービス利用を勧めている。		今後も継続して取り組んで行く

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際して事前に見学は勿論、体験入居なども勧め無理なく利用できるような配慮をしている。また、ご家族とも相談しこれまでの馴染みの家具や衣類などの持参を勧め、新しい環境にスムーズに慣れて頂ける雰囲気作りをしている。		今後も継続して取り組んで行く
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員がホームは生活の場としての認識を持ち、介護をする立場だけではなく、一緒に生活をするパートナーとしての意識を持ち、一日の暮らしを作るようにしている。調理も掃除もレクリエーションも職員と一緒にその場を楽しむ雰囲気づくりに努力している。		今後も継続して取り組んで行く
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ施設の行事に参加して貰ったり、面会訪問時は時間が合えばご家族にも散歩等にご一緒して頂くなどの機会を作る努力をしている。		今後も継続して取り組んで行く
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間には制限を設けず、良い関係を維持して頂ける様にいつでも面会を歓迎している。また面会時は出来るだけ、最近の様子など状況変化の有無をご家族に伝え、相互不信感に繋がらないように努力している。外泊や外出も制限せず家族との時間を過ごして頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人、知人などの訪問を歓迎し、以前の関係を損なわれる事のないようにしている。また、趣味の外出先(神社仏閣)や美容院などへの外出にも配慮し支援している。	○	もっと外出の機会を増やし、一人ひとりの暮らしが豊に感じてもらえるような支援をして行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の場として気の合う入居者同士の関係を尊重し、食事や娯楽時の席決め、外出時の同伴など良い関係の環境作りをしている。		今後も継続して取り組んで行く
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の一次先までは把握し、時には面会もしている。しかしその後の状況は把握していない。中には退居者のご家族からの年賀状などを頂戴している。		何時までも大切にしたい関係づくりを進めていきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を決め、一人ひとりの思いを把握して対応するようにしている。また、ケースカンファレンスを実施して適切な介護支援方法を検討している。		今後も継続して取り組んで行く
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族からの情報を聞くとともに、面会時などでもご家族等からヒアリングして入居者の支援内容に反映する努力をしている。		今後も継続して取り組んで行く
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	夜勤明けの引継ぎミーティングや定期的カンファレンスで、一人ひとりの過ごし方や言動を共有し、ケアマネジャーが総合的判断できる体制にしている。		今後も継続して取り組んで行く

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスでケアマネジャー・ホーム長・ユニット長・担当職員が課題を検討し、状況によりご家族やご本人の意向も確認してケアプランを作成している。また、朝の引継ぎミーティングに出来るだけケアマネジャーも参加し日々の変化に対し、タイムリーに支援する内容を検討し対応するように努力している。		家族の意向をもっと反映したケアプラン作りを進めて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者のそれぞれに対して定期的見直しが不十分であり、現状に即したケアプランになっていない。今後更なる努力をする必要がある。	○	要介護度の変更、入退院後のADL変化等現状に即したプランづくりや、定期的な見直しを進めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎の活動日誌・業務日誌・往診ノート・連絡ノート・排泄記録等々に記録を残し、その内容を全員で共有化して日常の支援に反映している。		今後も継続して取り組んで行く

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の都合により、通院介助や買い物等の支援を可能な限りタイムリーに進めている。	今後も継続して取り組んで行く
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力を得て消火訓練や避難訓練の実施、民生委員や地域のボランティア団体の協力によるアクティビティや行事の企画をし、入居者に楽しんで貰っている。	今後も継続して取り組んで行く
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近くの地域ケアプラザの行事や集いに参加し、楽しんだ。	今後も継続して取り組んで行く
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議のメンバーとして参加して頂いており、時宜の情報を得ている。	もっと地域包括との連携を進めて行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員は訪問診療のクリニックと契約を結び、定期的診療を受け医療的に適切な診察治療を受けている。また突発的体調不良時もドクターに緊急電話連絡をし、必要な対応の指示を受けている。	今後も継続して取り組んで行く
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳神経外科医との医療提携をしているが、日常的には交流はしていない。しかし入居者の診断や相談は可能な状況である。	今後も継続して取り組んで行く
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療提携しているクリニックから二週間に1回の訪問看護が来ている。ドクター以外に相談や医療的アドバイス等の支援を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は出来るだけ面会訪問して様子を伺い、病院関係者からも情報を得て退院の見込みや入院状況を把握して支援に繋げている。		今後も継続して取り組んで行く
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴ない共同生活が困難が予想された場合は、将来的な生活の有り方をご家族に相談し、場合によっては施設介護への申込みも依頼している。現状では設備及び医療との連携、職員の技術レベル等を考え、ターミナルケアは導入できる状況にないが、将来的には導入を検討して行く。	○	ターミナルケアの導入に向け準備検討を進めていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化による設備改善は現在も進めている。グループホームでの生活が可能かどうか、将来的にどう有るべきかを訪問診療のドクターともよく相談しながら適切に支援している。		今後も継続して取り組んで行く
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所に移り住む不安を出来るだけ解消して頂く為、ご家族からの情報を入手して対応方針を共有し、ご本人にも説明をして納得して頂ける形で入居して貰っている。生活に慣れるまでは個人的対応にも努力している。		今後も継続して取り組んで行く
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	本人の自尊心やプライバシーを傷つけないような対応を心		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	がけ、職員間でも常に話し合い細心の注意をして支援している。記録類についても保管場所は職員しか目の届かない場所に保管管理している。更に個人情報については守秘義務の徹底を指導している。		今後も継続して取り組んで行く
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々関わりの中で入居者の希望や関心事・好み等を見極め、ご本人が選択する場面作りに努力している。		今後も継続して取り組んで行く
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場として生活のリズムとご利用者のペースに配慮しながら、出来るだけ起床・食事・入浴・日中の過ごし方・就寝時間は柔軟に対応するように心がけている。		今後も継続して取り組んで行く
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の洋服には本人の選択を基本としつつ、おしゃれや季節感に職員が気配りと見守りの支援をしている。不足や破損があればご家族に補充依頼したり、ご本人と一緒に好みの洋服や化粧品等の購入をするなどの支援に努めている。訪問美容に定期的来てもらって、好みの髪に整えて貰い、行き付けの美容院を希望の方は連絡して送迎付きでセットしても		今後も継続して取り組んで行く
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には出前の昼食を注文したり、買出しに行き外の牛丼を買って食べて貰ったりしている。調理は一緒に出来る方にはじゃが芋やにんじんの皮むき、モヤシのヒゲ取り、大根のおろしなど準備作業、また配膳や食後の片付けなどにも参加してもらい自立支援と役割を実行している。		今後も継続して取り組んで行く
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーや牛乳など好みの飲物を個別に購入、喫煙者には一緒に買い物にも出かけ好みの煙草を購入し、それぞれの嗜好を楽しんで貰っている。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しトイレの声掛けやトイレ誘導を実践している。		今後も継続して取り組んで行く
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	まずは出来るだけ公平に入浴を楽しめるように配慮しつつ、状況や希望に合わせて入浴できるような対応に心がけている。		今後も継続して取り組んで行く
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お天気の良い日は散歩や買い物に出かけたり、レクリエーション・家事など日中の活動を通して出来るだけ入居者個人に合わせた生活のリズム作りを行っている。また日中ソファで心地良くくとうとできるようにリビングにソファを置いている。		今後も継続して取り組んで行く
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割、出番を見出し、日々の生活に関わりを持って生活して貰っている。買い物・料理・掃除・洗濯物の取り入れや整理・庭の草取り・園芸・音楽鑑賞・編み物やお絵かきなど役割・楽しみ事など職員と一緒に支援している。		今後も継続して取り組んで行く
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお小遣いは貴重品として事務所で一括して預かっているが、買い物などの外出時は職員が付き添い一緒に支払いしたり、施設にある自動販売機ではお金を渡して自分で購入し、その方のレベルに合わせた支援の工夫をしている。		今後も継続して取り組んで行く
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日はできるだけ近くの公園に散歩に、障害者が営業している近くの喫茶店でコーヒーを飲んだりハザーに出かけている。喫煙する入居者とは散歩をかねて歩いて煙草を買いに出かけたりもしている。時には芝生の庭に出て1階と2階の全員でコーヒーのお茶会を楽しむ等の気分転換を図っている。		今後も継続して取り組んで行く
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の散歩の他、地域や施設の行事等で外出し楽しんだり、お花見や寺院にお連れしたりしている。	○	外出の機会を多くし、買い物や外食、施設見学などの機会を作って行きたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話には出来るだけ取次ぎ会話を楽しんで頂いたり、知人や家族の手紙やはがきのやりとりでポストに投函したり積極的に支援している。入居者からの電話は時間帯や内容により調整させて頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
	○家族や馴染みの人の訪問支援	施設への訪問客は特に制限してなく、いつでも歓迎している。		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設への訪問者は特に制限なく、いつでも歓迎している。面会に来られたら、居室で自由に会話や飲食を楽しんで頂くようお茶などを出している。但し、喫煙は安全上居室外の所定の場所をお願いしている。		今後も継続して取り組んで行く
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止行為」については個々に説明はしていないが、身体拘束の問題点や禁止を理解している。現に身体拘束の実態には無い。		基準における身体拘束禁止について正しく教育指導して行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、利用者がいつでも自由に出入りできるようにフリーにしている。しかし安全管理上、二階の玄関にはドア開閉時のセンサーを取り付け、出入りする際の確認をしている。		今後も継続して取り組んで行く
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が多くいるホールに職員がいなくなることを避けるよう相互に声をかけあい、利用者の所在や様子を把握できるように努めている。行動障害がある方も居り、二階玄関にはドア開閉時のセンサーを付け安全管理の一つにしている。		今後も継続して取り組んで行く
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の状況に合わせて注意が必要な物品は何かを職員が把握し、刃物などの使用時は職員の目の届く範囲で使用してもらっている。また、共同の生活の場所には刃物や洗剤、薬等は置かないように別の場所で保管管理している。		今後も継続して取り組んで行く
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態を把握理解し、予想される事故の防止や対応方法について職員間で話し合っている。服薬は飲込みまで確認し、喫煙者には煙草とライターは職員管理を理解して貰っている。また、事故やヒヤリハットの報告記録を作成し、具体的な対策をとり全員に回覧周知して類似の事故防止を図っている。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応についてマニュアルを作成し、会議や勉強会などで対応を確認している。また緊急時に備え、救急携行袋を用意している。	○	定期的に訓練や勉強会を実施して行きたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を頂き、消火訓練や避難訓練等の指導をして貰っている。また自治会の避難防災練にも参加している。	○	有事の際は地域の消防班にも協力をお願いしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状況を把握理解し、起こり得るリスクについて職員全員で共有し、必要により見直しも行っている。家族には面会時にその都度状況を説明している。		今後も継続して取り組んで行く
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックの結果だけに頼らず、利用者本人の顔色や様子を観察し、体調変化やサインを報告するとともに状況により訪問診療のドクターに相談し、対応の助言指示を頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在使用している全ての薬(飲み薬や目薬、塗り薬や貼り薬)について、薬の写真や薬の働き、注意事項、相互作用、副作用を記載した一覧表をファイルとして常備し、処方されている薬について理解をしている。	○	誤薬等の事故が発生しないように、薬の認識を深めて行く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄のチェックシートで便秘症状の有無を把握し、水分や運動等に注意している。水分摂取量の管理や運動・腹部マッサージなどの支援に心がけている。		今後も継続して取り組んで行く
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援の必要な方には口腔ケアを実施しているが、自立されている方は声かけが主で確認できていないことがある。状況により訪問歯科医への相談もして対応している。		今後も継続して取り組んで行く
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは食材配送会社で管理依頼しており、水分摂取量については飲水記録をつけ管理している。嚥下状況によりトロミアップや刻み食などの対応をしている。		今後も継続して取り組んで行く
	○感染症予防	生活職員が感染源とならないよう、手洗いや消毒		

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	先ず職員が感染源とならないように指導し、うがい、手洗いなどを励行している。また外部研修にも参加し、新しい知識や技術を学び会議等で知識を共有している。消毒用液も常備し入居者の手洗いも促している。	○	きっちりした感染症対策マニュアルを作成して行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の食材は衛生管理を徹底した給食会社に安全な食品納品を求め問題は無い。調理については担当者は調理用のエプロンやマスク・頭巾を着用し、食器は食器乾燥機にかけるなど衛生管理に努めている。		今後も継続して取り組んで行く
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は明るい黄色の壁に赤い縁取りの屋根で、とても親しみやすい概観になっている。また、フェンス越したが庭の状況が見られ、季節毎の花や野菜があり、ご家族が訪問時に緑の芝生の状況や美しく咲いた花々、野菜の成長具合を感想で述べてくれる雰囲気になっている。		今後も継続して取り組んで行く
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には、家庭的で暖かい雰囲気作りをしている。壁にはリースや行事の際の写真を掲示したり、テーブルには季節の切花を飾ったりしている。雰囲気によりBGMを流したり落語を流したり工夫し、入居者が落ち着いて寛げるような配慮をしている。		今後も継続して取り組んで行く
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファや椅子・テーブルの配置等を工夫し、ご利用者が一人になったり、気の合った同士で自由に過ごせるような居場所を作っている。		今後も継続して取り組んで行く
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら、慣れ親しんだ家具やお気に入りの物を継続して利用して頂けるよう勧め、安心して過ごせるような居室作りを心掛けています。ご希望によりテレビや仏具などの持ち込みもして頂いている。		今後も継続して取り組んで行く
	○換気・空調の配慮	掃除時や必要時に空気の換気に努め、ご利用者の状況や		

84	<p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>状態を観ながらリビングの温度管理を適時行っている。また、常時空気清浄機も作動させ心地良い環境作りに努めている。冬季の乾燥時期は加湿器を設置し湿度の管理もしている。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用者のADLにあわせ、自立した生活ができるだけ可能なように廊下やトイレ、浴室に手摺を設置している。最近、ご利用者の動作により必要と思われる箇所に手摺設置の提言もあり、安全と自立を考え設置を進めている。</p>	○	<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの判る力や能力を把握し、家庭的な雰囲気壊さないよう工夫しながら名札を設置したり自立支援に努めている。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外周りには、季節によりご利用者・職員が植えた草花や野菜があり、庭には芝生を張り居室やベランダから眺めることができる。1階の玄関先にはジュースやコーヒーの自動販売機を設置し、歩行訓練を兼ねて好みの飲物を購入可能にしたり工夫している。</p>		<p>今後も継続して取り組んで行く</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 理念を基本とした支援体制。
- ・ ご利用者一人ひとりのその方らしい生活環境作り。
- ・ ご利用者、職員、ご家族、ドクターとのチーム連携。